

マルチ・スズキ、酸素発生装置を製造する工場の生産能力を増強

マルチ・スズキ・インドは、人命を救う酸素の製造および計り知れない物流上の問題を減らすためには、酸素発生装置を製造することが重要だと認識している。酸素発生装置は小規模ユニットで製造が行われており、非常に限られた資源または生産能力のスケールアップが難しい状況にある。デリー首都圏においては、Airox Nigen Equipments 社と SAM Gas Projects 社の 2 社が製造を行っている。両社には注文が殺到しているが、月に 5～8 台しか生産できる能力がなく、マルチ・スズキは自社の資源を使って生産規模の拡大を支援することにした。

マルチ・スズキは 5 月 1 日から両社と話し合いを始め、すぐに合意に達した。技術、品質、性能、そしてすべての商業上の問題は両社の責任であり続けるが、マルチ・スズキとそのベンダーは自社の能力を利用して生産規模を急速に拡大する。マルチ・スズキはこれを無利益で行う。

Airox Nigen Equipments 社の工場はアーメダバードにあり、ベンダーの SKH Metals 社が協力している。マルチ・スズキは、酸素発生装置にとって重要な輸入原料であるゼオライトの新たな供給源を確保することができ、航空便で供給される。また、コンプレッサーも重要な調達機材である。Airox Nigen Equipments 社は既に 1 日 1 台の酸素発生装置の生産量に達しており、5 月中には 1 日 4 台まで急速に拡大される予定である。5 月の生産量は 50～60 台になると見通している。

SAM Gas Projects 社はベンダーの JBML 社が支援している。マルチ・スズキはすべての重要な情報を提供している。SAM Gas Projects 社は 5 月に 20～30 台の生産を予定している。

マルチ・スズキとそのベンダーは、Airox Nigen Equipments 社と SAM Gas Projects 社の 2 社から酸素発生装置を調達し、医療用に寄贈する。

また別のマルチ・スズキのチームは、製造された酸素発生装置が可能な限り早く設置され、稼働するように取り組んでいる。

マルチ・スズキの経営陣は、この活動の調整と監視に努めており、それが新型コロナウイルスとの全国的な戦いに何らかの変化をもたらすことを期待している。